

《第11号》 ***PubMed(R)検索のコツ***

半世紀分もの医学文献が自由に検索できる PubMed は、既におなじみのことと思います。概要については図書館 HP(<http://www.lib.iwate-med.ac.jp/PM.html>)や「PubMedOverview」(<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query/static/overview.html>)をご覧ください。今回は、普段の利用案内では言及しきれない PubMed の便利な機能をご紹介します。

まずは、「MeSH Database」です。MeSH 用語の検索に利用されていると思いますが、用語の説明や出現時期などの記載があり、簡単な辞書代わりにもなります。さらに「NLM MeSH Browser」で調べると、新しい用語についてはそれ以前の索引語や注記なども表示されており、特に年代をさかのぼって検索する場合に知っておきたい情報が参照できます。

続いて「Clinical Queries」ですが、EBM のために、治療、診断、病因、予後について広範囲または絞り込んだ検索をすることができます。臨床現場で至急根拠の確かな文献を探したいときなどに役立つ機能です。逆に質の高い文献を網羅的に検索したい場合は、MeSH や subheadings その他の「Limit」項目などを駆使する必要があります。

また、特定の文献を探したい場合に便利な「Single Citation Matcher」という機能があります。タイトルワードや著者、誌名、巻、号、開始ページ、年などから該当文献を導き出します。私たち司書は書誌事項の確認によく利用していますが、引用文献や手元のメモが不確かであった場合に、既知の事項を入力すると目的の文献が見つかります。ヒットしない場合は、誤った値がある可能性があるので入力値を減らしてみると良いでしょう（それでも不明な場合は、運用カウンターへ調査をご依頼ください）。この5月から、筆頭著者に限定した検索や、フルネームでの検索(2002年以降のデータのみ)など、著者を特定しやすい機能が追加されました。

検索結果から検索語を意識せずに簡単に関連文献を参照できる「Related Articles」も便利です。まさにこれ！という文献がヒットした場合、自動的にキーワードの出現頻度やフィールドによる軽重などの関連性を計算してリストアップしてくれます。キーワードを特定しにくい新しいテーマや、名称が確定していない疾患などの文献検索に有効です。

「My NCBI (旧 Cubby)」では、自分だけの検索式の保存、DB 更新毎の検索結果の受信 (Auto Alert) が可能です。PubMed は、いつでもどこでも同じ条件で利用できるのも、職場と自宅で同じ検索ができる共有性・速報性というメリットもあります。

「LinkOut」機能によって、探し出した論文がすぐに読める場合もあります。本学で登録している電子ジャーナルや「PubMedCentral」のほか、出版社のサイトでも全文閲覧が可能ことがあります。検索結果の表示形式を「Abstract」や「Citation」にすると岩手医大や出版社のリンクボタンが出てきます。「Summary」形式の場合は、左側の書類マークでどこまで閲覧できるかがわかります。

最後に、「PubMedTutorial」をお勧めします。初めて利用される方はもちろんですが、これまで自己流で使われてきた方も、楽しみながら PubMed を知ることができます。簡単な「Practice」もありますので、是非チャレンジしてみてください。今後の検索に役立つ新たな発見があるかもしれません。

<参考文献>

- (1) 図解 PubMed の使い方;インターネットで医学文献を探す 第2版 阿部信一、奥出麻里 著 日本医学図書館協会 2003 (3Fカウンターにあり)
- (2) 若葉マークの PubMed;初心者のための検索マニュアル 牛澤典子著 情報科学技術協会 2005

図書館トリビア

図書館員が本をペラペラめくっている姿、これは決して拾い読みを楽しんでいるわけではありません。到着した資料を受入れする前に、1冊1冊、乱丁落丁や正誤表の有無などの確認をしているのです。正誤表はかなりの量なので、コピーを訂正箇所貼り付ける作業を週2回館員で分担しています。論文をコピーする際、切り抜きが貼られていたら正誤表ですのでお見逃しなく!!

メールマガジンに関する意見・質問は、運用係 unyo@lib.iwate-med.ac.jp まで。